

今月のトピック

◆就農希望者、南郷トマトの交流会に参加

10月3、4日の2日間、南郷村、只見町で「南郷トマト産地農家民泊・見学交流会」が開催されました。これは、県青年農業者育成センター、JA会津みなみ及び南郷トマト生産組合が主催し、新規就農を希望する方々に呼びかけて開催されたものです。

当日は、主に首都圏に在住するサラリーマンや自営業の方12名が参加し、うち3組がご夫妻での参加でした。初日は、長谷川農業者育成センター所長、三瓶JA会津みなみ組合長、坂本南会津地域農業改良普及センター所長の挨拶の後、南会津の地域紹介や南郷トマトの産地などについての説明がありました。参加者からは、自己紹介とともに農業に対するあこがれの気持ち、就農にあたっての質問が寄せられ、意見が交わされました。その後、生産者のお宅に分かれて民泊し、翌朝のトマト収穫体験、管内施設を巡ってのバス教室を経て日程を終了しました。参加者からは、「参考になった」、「人情にふれて感激した」等の感謝の言葉を聞くことができました。

◆きのこシーズン到来！きのこ関連行事開催

(1) 野生きのこ採取鑑定会

10月4日、只見町青少年旅行村・いこいの森で開催しました。只見町明和緑の少年団と一般参加者合わせて50人が参加し、県林業試験場の渡部正明さんの指導によりきのこの検索と分類を行いました。毒きのこのドクベニタケ、ニガクリタケなども含め58種が採取鑑定されました。



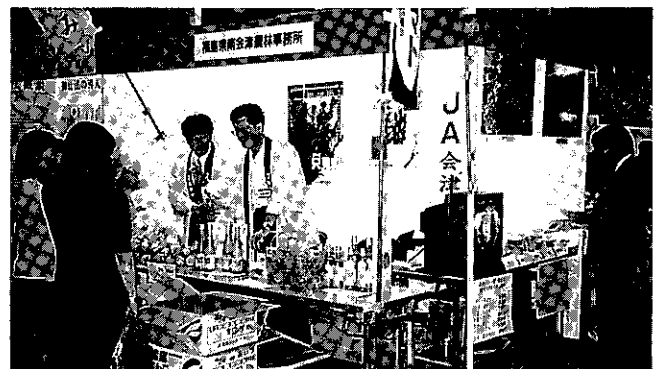
きのこ鑑定会 食べられるきのこはどれかな

(2) 山の幸シンポジウム

10月5日、只見町「湯ら里」において、南会津郡内各町村のきのこ生産者など70名の参加者を集め開催しました。福島県きのこセンター顧問、庄司當さんの「キノコを活かした地域振興」と題した特別講演の後、きのこ栽培やきのこ保護対策の事例報告、全員参加による「キノコを活かす、守る」をテーマとした検討会を行いました。

◆うつくしま農林水産まつりに参加しました

農林水産業に対する消費者の理解を深め、生産団体との交流を図る目的で、県内の農の祭典・うつくしま農林水産まつりが10月30日から11月1日までの3日間、郡山市の県産業交流館「ビックパレットふくしま」で開催され、多目的展示ホールや屋外展示場で農産物や生鮮食品、乳製品、地酒など県内各地の地場産品が展示即売されました。



農産物販売とパネル展示のブース

南会津農林事務所では、「南会津の食と農・林」をテーマにJA会津みなみ、下郷町ふるさと振興協議会、緑と水の推進協議会の協力を得て、ざるそば、しんごろう、会津地鶏の焼き鳥など飲食物販売、南郷トマト、リンゴ等の農産物、きのこ加工品など林産加工品の展示即売を行い、併せてパネル展示、各町村のPRビデオ上映と観光パンフレットの配付を行い南会津の農林業を総合的にPRしました。販売物の売れ行きは好調で、連日午後2時位にはほとんど完売の状況でした。

◆「林道グリーンアップ作戦」を展開

管内の林道総延長は509,882m、林道密度は5.3m/haと県平均の6.6m/haに比べ低くなっていますが、その役割は、木材や林産物の搬出、森林整備の促進、森林空間の高度利活用と他の地域同様に大変重要なものとなっています。

しかし、開設の遅れなど林道事業を取り巻く環境は必ずしも良好ではなく、また一部の入山者による、山菜やキノコの乱獲、ゴミの不法投棄など林道に起因する問題も多く発生してきています。

このたび、南会津地方林業協会と建設業協会田島支部の主催で、森林に関心のある一般の人たちと林業に携わる人たちが協力し、自ら林道沿いの草刈り、空き缶等ゴミ拾いの清掃作業を行い、林道に一層の関心と親しみをもってもらうよう、「林道グリーンアップ作戦」が108名の参加を得て10月13日に実施されました。

下郷町の「大峠線」、伊南村の「小塩塩之岐線」の2路線を対象に、朝8時、出発式において「作戦」の目的と作業上の注意事項を確認後、7～9人を一班として作業を行いました。当日は天候にも恵まれ、半日で草刈りは延長10数km、ゴミ拾いはトラック数台分にもなりました。

管内各町村では、森林資源の有効活用を推進すべく、多様な施策を展開しています。これらを実現するため、林道事業への期待は一層大きくなってくると思われます。このため、今後もこのよう

なイベントも通じながら、地域との合意形成を基本とした林道事業の展開を図りたいと考えています。

◆まるごと体験モニターツアーを実施

11月1日から3日にかけて南会津地方グリーン・ツーリズム推進協議会主催によるモニターツアーを実施しました。8月には田島町と下郷町をメインエリアにツアーを実施しましたが、今回は館岩村、南郷村、檜枝岐村をメインエリアに、首都圏より29歳から65歳までの男女14人が参加し、リース作り、トマトの収穫、マルメロ酒作り、そば打ちなどを行いました。



和やかな雰囲気の中、おいしいそばができました

2日目の体験メニューであるトマトの収穫は南郷村の酒井仁平氏のほ場で行われました。参加者はもぎたての完熟トマトを丸かじりして、皆その甘さに感動していました。

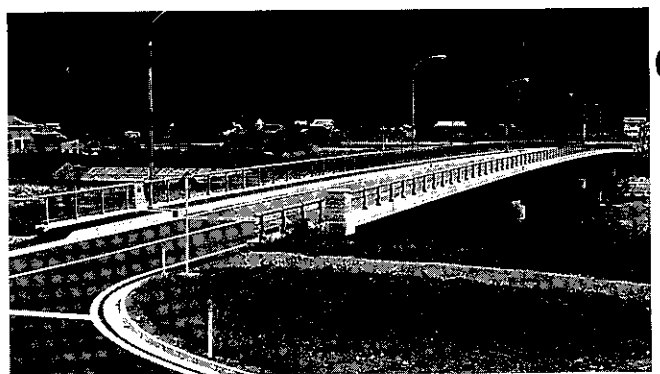
トピック～農村整備事業の実施状況～

◆大手門橋の渡橋式が行われました

農免農道整備事業は、農産物及び生産資材等の流通体系の確立と営農の近代化を進めるため、農業で使用される揮発油の免税相当分を財源として地域の基幹的な農道を整備する県営事業です。

伊南村の赤岩地区は、地区内を伊南川が東西に分断しており、地域農業の生産向上を図る上で障害となっていました。このため、平成3年度より総事業量397メートル、総事業費は4億8千万円をかけて橋梁の新設と併せて農道の整備を行ってきましたが、このたび橋梁が完成しましたので10月20日に渡橋式が行われました。

橋の前方には小高い丘があり、ここはその昔、伊達政宗の来襲に備えて築城された久川城の城跡となっています。このたび作られた橋は、この城の大手門に近いことから大手門橋と命名いたしました。農道・大手門橋ともに、明るく活力ある地域の農業・農村づくりのためにご活用下さい。



完成した大手門橋

◆田部地区の集落排水処理施設が竣工

農業集落排水事業は、生活雑排水等による農業用水の汚濁防止と農村の生活環境改善を図ることにより、安全で生産性の高い農業実現し活力ある農村社会の形成を目的としています。

田島町田部地区において、平成6年度より本事業を着工し、総事業費6億7900万円で、総延

特集！認定農業者制度について

◇認定農業者数は我がマチの農業元気度のバロメーター

『11月は、認定農業者の育成確保等に集中して取り組む「農業経営基盤強化促進月間」です。』

認定農業者制度は、規模拡大などによりサラリーマンなみの所得と労働時間をめざす、意欲のある農業者を育成しようとするものです。

これは、我が国の食糧自給率が大きく低下していることや、農業に従事する人が減少しているこ

となど、今後農業を担っていく人が大幅に少なくなってしまうことが背景にあります。

21世紀の日本の農業を担う人を認定し、行政や農業団体が集中的に支援を行っていくとともに、多くの農用地を認定農業者に集積することを目標にしています。

現行制度の支援措置

- 農用地の利用集積の支援（農業委員会が利用関係を調整）
- 税制上の特例（農業機械等の割増償却）
- 融資面での配慮（農林漁業金融公庫資金等の優先貸付）
- 研修等の実施（農業経営改善のためのノウハウの蓄積）

◇認定農業者への施策の集中を！（基本問題調査会答申の内容）

本年9月に提出された食料・農業・農村基本問題調査会答申でも、意欲ある担い手に施策を集中することが必要であることが明確にされております。

また、中山間地域の農業生産活動等に対する直接所得補償制度についても言及されていますが、これは国土・環境の保全をはじめ緑や景観などの農業農村の多面的機能が評価されたこととあわせ、所得補償を行う対象として、担い手農家等を

あげています。

さらに、価格政策における市場原理の一層の活用を図ることをめざす一方、意欲ある担い手に対しては所得確保を講ずるべきとしています。

今後、国をはじめ行政の施策はますます認定農業者を対象として行われるようになります。集落の農業を守るためにも、「認定農業者数は我がマチの農業元気度のバロメーター」として、みんなで拡大を図りましょう。

研修会・講習会のお知らせ

内 容	日 時	場 所
会津農業センター短期研修		
①家畜生体肉質診断装置活用による効率的生産技術	11月上旬	会津農業センター内
②花屋が求める花々、フラワーアレンジメント	11月中旬	〃
農業短期大学校研修		
①アーク溶接基本技術	11/18～19	農業短期大学校内
②農産物販売管理のためのマーケティング戦略	11/19	〃
③無人ヘリ操作基本	11/24～27	〃
④おいしい米の作り方～食味研究の最前線から～	12/3	〃
・走査型電子顕微鏡を用いたおいしい米の構造 茨城大学農学部 農学博士 松田智明氏	10:00～15:10	
・食味計を利用した食味分析と土壌改良との関係 福島県経済連農業技術センター 農学博士 舘川洋氏		
その他の研修		
①複式農業簿記講習会（初級コース）	12/3～4	田島町中央公民館
主 催：県農業会議、県農業簿記普及協会		

内 容	日 時	場 所
内 容：複式農業簿記のあらまし、複式簿記の記帳演習 受講料：2,000円 テキスト代：5,610円		
②複式農業簿記講習会（中級コース） 第1回目	12/14～15	田島町中央公民館
〃 〃 第2回目	12/22、2/10	〃
③経営戦略セミナー（戦略マネジメントゲーム研修）	11/16～17	郡山市熱海町 「清稜山倶楽部」
主 催：県農業会議、県農業法人支援センター		
内 容：マネジメントゲームの実習と決算 戦略会計・ビジネスパワー分析等に関する講義	第2回は12/16 ～17の予定	
受講料：15,000円（宿泊代含む）		
※①②③ともに詳細については各町村または普及センタ ーまでお問い合わせ下さい。		

※お申込み・お問合せ先：南会津地域農業改良普及センター TEL 0241-62-5262

志

蕎麦談義

今年のそばは不作であったが、それでも新そばの季節到来で会津地域を中心に県内各地で「そば祭り」のイベントが盛んに開催されている。

近年、転作田へのそば作付け増により、北海道に次ぐ面積となった本県のそばが、地域の「村おこしの目玉」として取り上げられ、大変良いことである。

しかし最近、あまりにもそばに対する講釈ばかりの人（自称通）が多いのには驚く。

白く、「そばは100%の手打ちに限る」、「このそばは白いから混ざっている」、「つなぎは邪道だ」、「そばは冷たいのに限る」等々。

古くから土地を選ばず、省力作物として特に山間地域では米を補う作物がそばであり、江戸時代の頃からか二八そばで安価な食物であったはずである。

自分の好みで講釈無しで食べればと思うのだが。

また、これらの談義に「そばのつゆ」が話題にならないのも不思議である。会津の寒い冬、大根千切りのしたぢ（つゆ）であったり、コロコロ豆腐のつゆありで、温かいつゆにそばをつけ、またはかけて食べるを常とし、その美味しさは今日同じである。

玄そばの何たるかも知らず、そば打ちもできず、つゆの味も知らない人は、温かなくても冷たくても少し混ざっていても（どうせ分からない）黙っておいしく食べてもらいたいと思う日々である。

所長 横田

3ヶ月予報

仙台管区气象台発表の「東北地方3ヶ月予報」

11月 日本海側では平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。太平洋側では周期的に変わるでしょう。

12月 日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。太平洋側では平年と同様に晴れる日が多いでしょう。

1月 日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。太平洋側では平年と同様に晴れる日が多いでしょう。

みなさんのご意見ご感想をお寄せください。
郵便・FAXどちらでも結構です。

あて先

〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所企画部 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5349

この広報誌は再生紙を使用しております。